



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週 報

2026～2027年度 RI会長 オラインカ・ハキーム・ババロラ
RIテーマ CREATE LASTING IMPACT

クラブテーマ「関わるすべての皆様と 夢、喜び、心からの感謝 の共鳴」

会長 小島 真 幹事 藤川智徳

第1647回 例会 2026.8. 28(金)曇

司会：高橋大輔君

ロータリーソング「それでこそロータリー」指揮：宮澤友一君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 小島 真君



皆さんこんばんは。

本日の挨拶ですが、今日の卓話は米山奨学生のティリリンさんです。ロータリーの友8月号に、ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識という特集がありましたので紹介させていただきます。

ロータリー米山記念奨学会について

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、日本のロータリーが共同で運営する奨学財団であり、主に会員の寄付を財源に成り立っています。

外国人留学生を支援

事業開始から一貫して、日本の大学・大学院などで学ぶ外国人留学生を対象にしています。2026学年度の全国の奨学生数は、外国人留学生を対象とした民間の奨学金では国内最大規模となる967人です。

世界平和への思いから始まった事業

海外、特にアジア諸国から優秀な学生を日本へと招き、奨学支援する「米山基金」の構想から事業が始まりました。日本のロータリーの父と呼ばれ、若い青年たちへの援助にも力を注いだ米山梅吉氏の生前の功績をたたえて、この名が付けられました。

「ロータリーの会員と外国人留学生との交流を通じて国際親善と世界の平和に寄与する」という事業の目的は、今日に至るまで変わっていません。

奨学生を育てる世話クラブ・カウンセラー制度

米山奨学生には地域のロータリークラブから「世話クラブ」

が選ばれ、会員が「カウンセラー」となって、日常の相談相手や交流の橋渡し役となります。奨学生は、毎月1回以上の世話クラブの例会の他、奉仕活動や地区行事などに参加し、学校生活だけでは得られない出会いと交流を通じて、日本の心、ロータリーの精神を学びます。これは世話クラブの会員にとっても、多様な文化や価値観への理解を広げ、相互理解を深める機会になっています。

事業の成果

この奨学事業の目的は人づくりにあり、その成果は、学友・学友会の活躍という形で着実に表れています。奨学期間を終了後、自らロータリーの会員となった学友は300人を超えており、クラブ会長やガバナーとなった学友もいます。

この事業が、ティリリンさん、そして我々せせらぎ三島ロータリークラブにとって、有意義な事業になることを祈念いたしまして会長挨拶とさせていただきます。

出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	38/44	86. 36%	40/44	90. 91%
今 回	37/44	84. 10%	会員総数	44名

欠 席 者

あなたが見えなくて残念でした。

大川君、大村君、岡君、小林君、成川君、三輪君、渡邊君



スマイルボックス

服部光弥君：8月20日RIより、2025-2026年度クラブ優秀賞をいただきました。みなさまの尽力に感謝致します。

入江俊介君：火曜日に、初めてメーキャップしに沼北と沼西の合同例会に参加して来ました。「来て、食って、帰る」の3Kでなく「会社、健康、家族」を大切にする3Kを意識しましょうというのが印象に残りました。

高橋麻子君：ティリリンさんの卓話です。よろしくお願いします。

野村諒子君：今、世界中で気候変動で災害にあう地域が増えています。静岡県東部もどうなるか。いつ起きるかわからないので、日頃より備えをしておきましょう。

藤川智徳君：本日、早退致します！

卓 話

ティリ ラインさん(米山奨学生)



『ミャンマーへの里帰り旅行』

みなさん、こんにちは。

今日は、私の夏休みのミャンマーへの里帰り旅行についてお話ししたいと思います。今回は、私のふるさとであるマンダレーと、ヤンゴンに行きました。今日は、旅行の話だけではなく、久しぶりにミャンマーに帰って、私が感じたこともお話ししたいと思います。

1. ミャンマーに帰るまで

今、日本からミャンマーへの直行便はありません。私のふるさはマンダレーです。そのため、日本を出発してからマンダレーに着くまで、約2日かかりました。でも、長い時間をかけて、やっとマンダレーに着いたときは、本当にうれしかったです。

2. 私のふるさと、マンダレー

マンダレーは、ミャンマーの中でとても有名な古い町です。昔、ミャンマーの王様が住んでいた場所です。日本で言えば、京都に少し似ていると思います。マンダレーには、昔の王宮があります。王宮の周りには、大きなお堀があります。とても広くて、景色もきれいな場所です。朝や夕方になると、家族で散歩する人もたくさんいます。自転車に乗ったり、ジョギングをしたり、ゆっくり歩いたりしています。私も今回、久しぶりにこの場所へ行きました。日本で生活していると、毎日忙しくて、ゆっくり景色を見る時間があまりありません。でも、マンダレーでは、ゆっくり歩いたり、家族と話したりする時間がありました。そのとき、「こういう時間も大切だな」と思いました。

3. ローカルマーケット

次は、マンダレーのローカルマーケットについてお話しします。

市場を見ると、その国の人たちがどのような生活をしているか、よく分かるからです。

マンダレーの市場では、果物や野菜、にんにく、玉ねぎ、魚など、いろいろな物が売っています。日本のスーパーでは、魚などがきれいにパックされていることが多いです。でも、ミャンマーの市場では、そのまま売っていることも多いです。そのため、市場の中には、いろいろなにおいがあります。今回、私の甥も一緒にミャンマーへ行きました。甥は日本で生まれたので、ミャンマーへ行くのは初めてでした。初めて市場に入ったとき、「くさい！もう帰り

たい！」と言いました。私はそれを聞いて、とても面白かったです。私にとっては、昔から知っている市場のにおいです。でも、日本で育った甥にとっては、初めてのにおいでした。同じ家族でも、育った場所が違っていると、感じ方も違うのだなと思いました。

4. ミャンマーの生活と文化

ミャンマーでは、仏教が生活の中に深く関係しています。朝になると、お坊さんが町を歩いていることがあります。そして、町の人たちは、お坊さんにご飯や食べ物を渡します。私が子どものころは、それが普通の生活でした。でも、日本に住んでから久しぶりに見ると、「これはミャンマーらしい文化だな」と改めて感じました。

外国に住んでみると、自分の国では普通だったことが、実は大切な文化だったと気づくことがあります。今回の旅行では、そのことを強く感じました。

5. ヤンゴン

次に、ヤンゴンについて紹介します。ヤンゴンは、昔ミャンマーの首都でした。ミャンマーで一番大きな町の一つです。そして、経済の中心でもあります。人がとても多く、いつもにぎやかです。

また、ミャンマーは昔、イギリスの植民地でした。そのため、ヤンゴンには、イギリス時代の古い建物がたくさん残っています。古い建物の近くに、新しい建物があることもあります。昔の建物と新しい建物が一緒にあるところも、ヤンゴンの面白いところだと思います。

6. 最後に

今回の旅行は、私にとって、とても嬉しかったです。特に、家族と一緒にご飯を食べたり、昔から知っている場所へ行ったりする時間が、本当に幸せでした。今回の旅行で、私は改めて家族の大切さを感じました。

私たちは、「いつでも家族に会える」と思っているかもしれませんが、も、いつ何が起こるかは分かりません。だから、家族や大切な人と一緒にいられる時間を、大切にしたいと思います。

日本には、「一期一会」という言葉があります。「一生に一度の出会いかもしれないので、その出会いを大切にする」という意味です。私は、今日ここでみなさんと一緒に過ごしている時間も、大切な時間だと思っています。同じメンバーで、同じ場所で、同じ時間を過ごすことは、もう二度とないかもしれません。だからこそ、家族との時間、友達との時間、そして、みなさんと一緒にいる時間を大切にしたいと思います。

みなさんも、ぜひ家族や大切な人と一緒に過ごせる時間を大切にしてください。

これで、私の卓話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

